

#### IV 学外との連携

ここでは、大阪市立大学「女性研究者ネットワークシステム」の共同利用（2016年度開始）、及び大阪市立大学を代表機関として本学を含む4機関で共同申請し2017年度に採択された、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）（2017～2022年度）」について成果を示している。

「女性研究者ネットワークシステム」では、2016・2017年度に各1名、大阪市立大学の大学院生を研究支援員として受け入れた。「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」では、次の8種の事業を実施した

1. 連携型共同研究助成（2017～2019年度に本学の女性研究者が研究代表者となったもの計5件）
2. 研究支援員制度（2017～2019年度に制度利用者延べ15名）
3. 「ダイバーシティ保育サポーター」養成セミナー（学生・地域住民等を対象に2017～2019年度に計9回実施）
4. 管理職研修／ダイバーシティ推進セミナー（2017～2019年度に計4回実施、一部はIIIで示した本学「教職員セミナー」として実施）
5. 英語プレゼンテーションセミナー（2017年度）
6. 外国語論文校閲・翻訳費用助成事業（2019年度）
7. 保育サポート事業（2019年度）
8. 女性研究者交流会（連携機関の女性研究者の交流会 本学の女性研究者が2018・2019年度参加）

## IV 学外との連携

### IV-1 大阪市立大学「女性研究者ネットワークシステム」共同利用

大阪市立大学が開発・運用し、既に大阪府立大学及び羽衣国際大学と共同利用していた「女性研究者ネットワークシステム」を、本学の構成員も利用できるように、2016年4月に覚書を交わした。

本システムは、人材データベースとソーシャル・ネットワーキング・サービスの2つの機能を持ち、利用者同士の双方向による情報交流の促進とコミュニティの構築を目指している。人材データベース機能では、研究を補助する人材を必要とする研究者、研究支援員になりたい学生・大学院生等が登録することができる。この機能を利用して、2016、2017の各年度に1組ずつ、本学の女性研究者と大阪市立大学の大学院生のマッチングが成立し、研究支援員として受け入れた。

### IV-2 文部科学省科学技術人材育成費補助事業の実施

2017年度、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に、大阪市立大学を代表機関として、和歌山大学、積水ハウス株式会社と本学の4機関（以下、連携機関という。）で共同申請し、採択された。

この事業は、研究環境のダイバーシティを高め優れた研究成果の創出につなげるため、女性研究者のライフイベントやワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の整備や女性研究者の研究力向上のための取り組み、女性研究者の積極採用や上位職への積極登用の取り組みを支援するものであり、事業期間は、2017～2022年度の6年間である。



2017～2019年度について、具体的には以下のような取り組みを実施した。

#### 1) 連携型共同研究助成費付与

女性研究者の研究力の向上や南近畿の研究ネットワーク拡大を図るため、連携機関に所属する女性研究者を研究代表者（PI）とした、2連携機関以上の研究者による共同研究に対し研究費の助成（1件当たり上限100万円）を行った。

連携機関が共同で作成した実施要領に基づき、連携機関連絡会議での審査を行い、2017年度には15件、2018年度には23件、2019年度には24件の研究課題が採択された。本学の女性研究者がPIとなったものは表IV-2-①のとおりである。

表 IV-2-① 本学女性研究者がPI となり連携型共同研究助成が付与された研究課題

2017年度

代表者（所属 職名）	研究課題	共同研究者（所属 職名）
平田久美子 教育学部 教授	エクオールによる閉経後女性の脱毛抑制効果に関する研究	森村美奈 大阪市立大学医学研究科 准教授

2018年度

代表者（所属 職名）	研究課題	共同研究者（所属 職名）
岡崎純子 教育学部 准教授	島嶼における広域分布種ツリガネニンジン類(キキョウ科)の多様性形成過程の解明	名波哲 大阪市立大学理学研究科 准教授
平田久美子 教育学部 教授	エクオールによる更年期女性の脱毛および顔面の毛髪増加の抑制作用についての研究	森村美奈 大阪市立大学医学研究科 准教授

2019年度

代表者（所属 職名）	研究課題	共同研究者（所属 職名）
青木 宏子 教育学部 特任准教授	『美の力, 芸術力によって, 人を元気にする』実践と研究—鑑賞における技能とは—	渡邊美香 大阪教育大学教員養成課程 准教授 高橋暁生 積水ハウス株式会社 CSR 部 絹谷幸二天空美術館研究員
岡崎純子 教育学部 准教授	遺伝的に異なるキキョウ科ツリガネニンジン類の2変種の実態と種分化過程の解明	名波哲 大阪市立大学理学研究科 准教授

## 2) 研究支援員制度

研究支援員制度は、出産・育児・介護を抱える女性研究者の研究支援のために、研究支援員（学生、大学院生等）を配置する制度である。研究支援員は、研究者の監督・指示の下、実験補助、資料作成、データ整理等の幅広い支援業務を行う。

前述の「女性研究者ネットワークシステム」によるマッチングに拠らず、学内に候補者がいる場合も制度利用の申請を可能としており、利用実績は表IV-2-②のとおりである。



表IV-2-② 研究支援員利用実績(延べ数)

2017年度		2018年度		2019年度	
制度利用者	研究支援員	制度利用者	研究支援員	制度利用者	研究支援員
4名	6名	3名	5名	8名	15名

### 3) 「ダイバーシティ保育サポーター」養成セミナー

大学のキャンパス等でイベント時に一時保育を行う場合の支援者「保育サポーター」を育成するため、学生や地域住民等を対象にセミナーを実施した。開催実績は次のとおりである。

なお、本事業の次年度以降の課題の1つとして、その成果の検証がある。保育サポート事業に参加した学生が、その後どのような活動にかかわったのか、あるいは関連する諸課題に関心を持つようになったのか、エビデンスを収集することで成果を確認する必要がある。その結果を踏まえ、改善点を検討したい。

#### ○2017年度第1回

日時：2018年2月6日（火）

内容：講演会「性的違和を乗り越えて～側にいる性的マイノリティ～」

講師：清水展人氏（一般社団法人日本LGBT協会 代表理事）

当日の受講者数：32名

当事者に一人で悩ませない社会、カミングアウトや相談のしやすい環境づくりのため、まずはその存在と多様性を知ることが大切との認識を共有できた。質疑応答では様々な質問があり、講義終了後も個別で話を聞きに来る学生がいるなど、当該テーマについて理解を深めるきっかけとなった。



#### ○2017年度第2回

日時：2018年2月20日（火）・21日（水）

内容：保育サポーター養成研修

会場：社会福祉法人南河学園 附属国分幼稚園

当日の受講者数：20名

事前に登録をした学生を対象に、保育の基本的な知識を学び、実践的な学習を行う研修を実施した。子どもに接するにあたっての注意点等の講義を受けた後、0歳児から5歳児の各保育室に分かれ、給食の時間も含めて保育士等スタッフより実地指導を受けた。

### ○2017 年度第 3 回

日時：2018 年 2 月 28 日（水）  
内容：講演会「子供の貧困～子供の SOS にどう応えるか?～」  
講師：徳丸ゆき子（NPO 法人 CPAO 理事長）  
当日の受講者数：30 名

徳丸氏より、活動の背景にある深刻な貧困の状況について、現場での切実で具体的な話がなされた。参加者からは、子育ての社会化という考え方に共鳴し、自分もできることから支援をしたいとの声が多数寄せられた。



### ○2018 年度第 1 回

日時：2018 年 6 月 25 日（月）  
内容：講演会「大学における LGBTs 学生支援の在り方  
～国内初の学生支援部署『早稲田大学 GS センター』での取り組みを通して～」  
講師：大賀一樹（早稲田大学スチューデントダイバーシティセンターGS センター専門職員）  
当日の受講者数：106 名

学生や連携機関の職員等が参加し、LGBTs の基礎知識、現状、諸課題を共有した。講師が在籍する早稲田大学 GS センターの成り立ちや活動実績を通して、学校における支援の重要性を学んだ。参加者からは、既成概念にとらわれない性別の捉え方やセクシャルマイノリティ支援の在り方について理解を深める良い機会を得たとの声が寄せられた。



### ○2018 年度第 2 回

日時：2019 年 2 月 20 日（水）  
内容：講演会「学校をプラットホームにした子どもの貧困対策 現状と課題」  
講師：小河光治氏（公益財団法人あすのば 代表理事）  
当日の受講者数：21 名

実際に貧困の中にいる子どもたちや保護者が孤立し、助けを求められないと感じていることが、支援の困難さを増していることを実体験も交えて語られた。また、公益財団法人あすのばで行っている様々な効果的な施策が紹介され、参加者からは、教育と福祉の連携の必要性がよく理解できたとの感想が寄せられた。



### ○2018 年度第 3 回

日時：2019 年 2 月 28 日（木）  
内容：講演会「SOGI（性的指向及び性別自認）の多様性をめぐる国内外の動向」  
講師：東優子氏（大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科 教授）  
榎井克明氏（大阪府立大学 学生センター学生課長）  
当日の受講者数：51 名

東氏からは、SOGI について、日本のマスコミでの取り上げられ方など身近なことから、海外での動向まで幅広く紹介され、共生を目指すためには包摂されているかどうかことが重要であると述べられた。榎井氏は大阪府立大学での先進的な取り組みが始まった契機から、施策の具体化は学生の協力を得ながら進めたこと等についてご教示いただいた。



### ○2018 年度第 4 回

日時：2019 年 3 月 4 日（月）  
内容：講演会「一人ひとりが生きる保育をめざして あーよかったな 先生になって  
～優しさという温かい貯金～」  
講師：仲島正教氏（教育サポーター）  
当日の受講者数：24 名（※大阪市立大学と TV 会議システムにて中継）

小学校教師を 21 年間勤め、教育委員会で人権教育に携わった経験を踏まえて非常に具体的な内容が披露され、講師の温かなお人柄があふれる楽しい講演会となった。参加者からは、「子どもたちの良いところ、素敵などころを見つけてほめたい」、「人を育てる管理職も聴講したらよいのではないか」などの感想が寄せられた。



### ○2019 年度第 1 回

日時：2019 年 11 月 27 日（水）  
内容：講演会「アナログゲームで育む子どものちから」  
講師：畑直樹氏（Kleeblatt 株式会社代表取締役）  
当日の受講者数：26 名

ゲームのコミュニケーションツールとしての活用と子どもの能力養成についてご講演いただくとともに、実際に様々なアナログゲームを使ったワークも行われた。参加者は、子どもの発達にとって多様なゲームがそれぞれに持つ意味やそれを引き出すための使用上の工夫点について理解を深め、遊びを通じて、認知能力、語彙力、反射神経、コミュニケーション



ン能力等といった子どもの力を伸ばすことにつながっていくことを体感した。

畑氏は、「アナログゲームは必ず人としなければならない遊びであり、どうしたらみんなが楽しく遊び続けられるのか、ルールをみんなで考えて工夫することが大切。コミュニケーションを通じて相談しながら作り変えていけることがアナログゲームの魅力でもある」と語られた。参加者からは、「細部にまで学べる配慮が行われていて驚いた」「ルールを独自で作れる自由さが工夫につながることが分かった」等の感想が寄せられた。

## ○2019 年度第 2 回

日時：2020 年 1 月 29 日（水）

内容：講演会「むかし遊びが『あたらしい』～こどもと仲良くなれる伝承遊び～」

講師：金坂尚人氏（神戸市立六甲児童館館長）

当日の受講者数：25 名

伝承遊びの中で、指先を使ったり、練習や工夫を通じて培われる子ども達の成長に必要な要素についてご講演いただきました。実際にゴム飛び、めんこ、おはじき、こま回し等の様々な伝承遊びを見て、聞いて、やってみるワークも取り入れられた。中でもこま回しでは、子どもたちに回し方を教える際の注意点が、実践を通じてわかりやすく解説された。

金坂氏は、「今そこにある物でいかに工夫して遊ぶかというのがむかし遊びのいいところ。今ある物、環境でどのように工夫するのかというのは、これからの子どもたちにとってもとても大切なことだと思う」と語られた。参加者からは、「こまを通して子どもたちの興味をひく方法や楽しみ方を教えていただき、子どもと接する時に取り入れたい」等の感想が寄せられた。



#### 4) 管理職研修／ダイバーシティ推進セミナー

女性研究者自らの上位職登用に関する意識啓発、また管理職を対象とした女性研究者の積極登用や管理職育成改革を醸成するためのキャリア研修を実施した。

##### ○2017年度

日時：2018年2月21日（水）

内容：講演会「Beyond the Bias and Barriers 無意識のバイアス  
～Unconscious Bias～と女性活躍促進」

講師：大坪久子氏（日本大学薬学部薬学研究所 上席研究員）

参加者数：40名

管理職を対象とした女性研究者の積極登用、管理職育成を目的とする研修を開催した。研修では、米国科学財団（NSF）における女性研究者支援事業の中での無意識のバイアスの発見の紹介に始まり、人事選考時等の選ぶ側と選ばれる側の具体的なバイアス例が示された。そして、バイアスの軽減に組織的に対応するために各大学の状況に即した採用のガイドラインを作成することを呼びかけられた。



##### ○2018年度

日時：2018年6月27日（水）

内容：講演会

「『技術開発』から『ダイバーシティ推進・CSR』新しい価値の創造へ向けて」

講師：小谷美樹氏（積水ハウス株式会社 CSR 部長）

参加者数：53名

本セミナーは、「ダイバーシティが生むイノベーション」をテーマに、柏原キャンパスにおいて、「平成30年度教職員セミナー」として展開された（詳細については41頁参照）。

##### ○2019年度第1回

日時：2019年6月26日（水）

内容：講演会「リーダー育成のためのメンタリング

～ダイバーシティ促進のための仕組みづくりに！～」

講師：西岡英子氏（大阪市立大学女性研究者支援室特任准教授）

参加者数：31名

本セミナーは、「リーダー育成のためのメンタリング～ダイバーシティ促進の仕組みづくりに～」をテーマに、柏原キャンパスにおいて、「令和元年度教職員セミナー」として展開された（詳細については42頁参照）。

## ○2019 年度第 2 回

日時：2019 年 12 月 18 日（水）

内容：講演会「研究者にとっての「キャリア・デザイン」「働き方改革」を考える」

講師：森仁美氏（公益財団法人 21 世紀職業財団客員講師）

参加者数：42 名（※大阪市立大学，和歌山大学と TV 会議システムにて中継）

本セミナーは，二部構成により実施された。第一部は，「研究者にとってのキャリア・デザイン」をテーマに，価値分析シートを使った自らのキャリアに対する自己分析を通じて，キャリア・デザインの意義，キャリアビジョンについて学び，受講者どうしの意見交換を行った。

第二部は，「ワーク・ライフ・マネジメントによる「働き方改革」の実践」をテーマに，ワーク・ライフ・マネジメントチェックシートを使いながら，データで見る現状と課題や職場での実践のポイント等を学ぶ機会となった。

参加者からは，「自分のキャリアを見つめる新たな視点が身についた」「働き方改革について，学内での実践を考える上で，他の人の意見や外部（企業）における現状を知る機会を得ることができた」等の感想が寄せられた。



## 5) 英語プレゼンテーションセミナー

日時：2018 年 3 月 15 日（木）・16 日（金）

講師：アイリーン・ケリー氏（株式会社サイマルインターナショナル）

参加者数：3 名

女性研究者のキャリアアップには外国語によるプレゼンテーション能力の向上も重要であることから，外部の講師を招聘し，2 日間にわたるセミナーを実施した。

1 日目は，プレゼンの効果的な始め方，本論の構成と展開，印象に残るまとめ方，効果的なビジュアルエイド，また 2 日目は，質疑応答への対処の仕方に続き，より高度なスキルの演習が行われた。

単元を終えるごとに学んだことを反映したプレゼンを行い，またそれをビデオで録画して評価するという実践的なセミナーとなった。参加者からは，講師の優しくおおらかな人柄にも助けられ，楽しく充実した時間となったとの感想が寄せられた。



## 6) 外国語論文校閲・翻訳費用助成事業

実施期間：2019年11月1日（金）～2020年2月14日（金）

女性研究者のキャリアアップには外国語論文の作成が必須であることから、女性研究者の国際的な研究力向上のために、外国語論文校閲・翻訳費として、1件あたり5万円を上限に5件を支援した。

助成対象となったのは、国外の学術雑誌等へ投稿される外国語論文4件、国際会議等のための外国語による発表用の原稿1件であった。

## 7) 保育サポート事業

代表機関である大阪市立大学において2015年度より構築・運用されている独自の保育サポート事業制度（夜間・休日・病児・病後児保育，学童保育利用料補助事業）を参考に、2019年度後期より導入したものであり、病児・病後児保育については1回2000円、それ以外については月5000円までの利用料の補助を行うものである。

実施期間：2019年10月1日（火）～2020年3月31日（火）

利用件数：7件

## 8) 女性研究者交流会

共同実施機関である積水ハウス株式会社により主催された女性研究者交流会は、女性研究者が集い、学び、情報交換をする貴重な機会となっている。この交流会は、日頃の研究成果発表の場となるとともに、研究者の生き方、家族のあり方などを考える場にもなっている。本学の女性研究者が研究発表を行った交流会は以下の通りである。

### ○2018年度 第2回女性研究者研究発表交流会

日時：2018年12月4日（火） 会場：梅田スカイビル 参加者数：約30名

内容

講演：「女性の活躍がこれからの企業を変える，社会を変える」  
大内章子氏（関西学院大学経営戦略研究科准教授）

研究発表：

「子育て視点から見た近居の親子世帯のライフスタイル」  
王飛雪氏（大阪市立大学特任助教）・渋谷いつか氏（大阪市立大学）  
「昼夜のどちらの訪花昆虫が有効か」  
岡崎純子氏（大阪教育大学准教授）  
「大卒初期キャリアにおけるリアリティ・ショックの多様性」  
本庄麻美子氏（和歌山大学助教）

研究発表者の一人として、本学の岡崎純子准教授が「昼夜のどちらの訪花昆虫が有効か」について発表を行った。質疑応答により課題の深掘りがなされ、活発な意見交換が行われた。

### ○2019年度 第3回女性研究者研究発表交流会

日時：2019年9月26日（木） 会場：新梅田研修センター 参加者数：約40名

内容

トークセッション：「幸せ住まい」×「エシカルなライフスタイル」

高津玉枝氏（株式会社福市代表取締役）

河崎由美子氏（積水ハウス株式会社住生活研究所長）

研究発表：

「子育て親子近居アンケート調査結果 近居する子育て親子世帯の訪問調査速報」

王飛雪氏（大阪市立大学特任助教）・平岡千穂氏（積水ハウス株式会社）

「遊びの要素から考える幼児の造形活動の実践」

青木宏子氏（大阪教育大学特任准教授）

「次世代半導体材料ダイヤモンド結晶における光キャリアのマイクロ波計測」

秋元郁子氏（和歌山大学准教授）

研究発表者の一人として、本学の青木宏子特任准教授が「遊びの要素から考える幼児の造形活動の実践」について発表を行った。発表後の質疑応答では活発な意見交換が行われた。

